

研究拠点形成事業 平成26年度 実施計画書

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型 (※)
(※ 該当しない交流形態を削除してください。)

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	京都大学野生動物研究センター
相手国の拠点機関：	タンザニア野生動物研究所
() 拠点機関：	

2. 研究交流課題名

(和文)：西部タンザニアにおける野生動物保全研究
(交流分野：基礎生物学)

(英文)：Study for wildlife conservation in the Western Tanzania
(交流分野：Basic Biology)

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/>

3. 採用期間

平成25年4月1日 ～ 平成28年3月31日
(2 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：京都大学野生動物研究センター
 実施組織代表者 (所属部局・職・氏名)：野生動物研究センター・センター長・幸島司郎
 コーディネーター (所属部局・職・氏名)：野生動物研究センター・教授・伊谷原一
 協力機関：
 事務組織：京都大学野生動物研究センター事務掛

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：タンザニア連合共和国
 拠点機関：(英文) Tanzania Wildlife Research Institute
 (和文) タンザニア野生動物研究所
 コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Department of Research・Director・KEYYU Julius
 協力機関：(英文) Tanzania National Parks
 (和文) タンザニア国立公園局

5. 全期間を通じた研究交流目標

本研究では、多様な動植物に恵まれている西部タンザニアにおいて、日本およびタンザニアを中心とした研究チームによる長期研究体制を確立し、野生動物の基礎研究を推進すること、ならびにそうした基礎研究から得られた成果をもとにこれらの野生動植物を効果的かつ持続的に保全する具体的計画を立案し提言することを目標とする。

現在は西部タンザニアにおいてはタンザニア人研究者による野生動物研究がほとんどなされていないのが実情であるが、この地で長期研究を継続してきた日本人研究者の指導の下、タンザニア人研究者や学生ら自身が主体的に研究を展開できる土壌を整え、タンザニア野生動物研究所（以下 TAWIRI）と京都大学野生動物研究センター（以下 WRC）、およびそれぞれの関連研究機関との間の有機的ネットワークを拡充し、強化する。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成25年度は、西部タンザニアのウガラ乾燥疎開林、及びマハレ山塊低地林において、タンザニア人若手研究者と共に現地調査を行い、野生動物の追跡・直接観察法と間接的証拠（足跡、糞、毛、音声など）による動物種の同定法などを指導した。その際、未同定種や過去に生息情報のない種を含め50種の哺乳類種を確認した。その一方で、密猟、密伐、開墾など多様な人間活動が認められ、とくに本来は中北部・シニャンガにテリトリーをもつ牧畜民スクマの人びとが大規模な畜群と共に遊牧してきており、本来の自然環境が著しく攪乱されつつある。その影響で、ウガラ地域ではかつて数多くの生息確認のあったゾウやライオンなどの大型哺乳類が著しく減少傾向にあることが明らかになった。一部の中・小型種については、その利用環境や生息密度に関して分析中である。

2013年12月6日、タンザニアのアルーシャにおいて TAWIRI と WRC 間の正式な研究協力協定が締結された（写真）。また、京都大学野生動物研究センターで8月に、タンザニアの野生動物研究所で12月にそれぞれ国際セミナーを開催した。その際、タンザニア国内各地における野生動物の生息状況に関する情報交換を行うと共に、各地域間での特性比較等について検証した。また、両セミナー期間中に、本事業による今後の研究方針についても議論された。



TAWIRI-WRC 間の研究協力協定締結の様子（2013年12月6日）

7. 平成26年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

平成26年度は、ダルエスサラーム大学、タンザニア国立公園局、NPO 法人 Jane Goodall Institute-Tanzania との研究交流を行う。それを踏まえ、9月にタンザニアのアルーシャで、本事業主催の国際セミナーを開催する。また、3月にはタンザニアのシニア研究者を日本に招聘し、京都大学霊長類・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院、理学研究科、霊長類研究所、公益財団法人日本モンキーセンター等と協力して国際シンポジウムを開催し、より学際的な研究協力体制の構築を目指す。

<学術的観点>

生物多様性のホット・スポットである西部タンザニアにおいて、野生動物の生息状況を引き続き追跡する。可能な限り直接観察を試み、とくにアンブラ種やフラッグシップ種となりうる種、またそれらを支える中・小型哺乳類種の生息実態を把握する。同時に、非侵襲的手法によってDNA解析やホルモン分析に供するサンプルの収集も行う。それらを通じて、集中的な生息地域、生息密度、環境利用、採食生態、血縁分布、種間関係等を明らかにする。一方、前年度確認された遊牧という人間活動についてさらにモニタリングを続け、それが同地域の環境に及ぼす影響を分析する。

<若手研究者育成>

日本の大学院生・若手研究者を西部タンザニアに派遣し、調査許可取得から国内移動、フィールド・キャンプ設営、現地住民との交渉、現地調査まで、フィールド・ワークの実践を指導する。また、タンザニアからも大学院生・若手研究者を招聘し、国内の研究拠点や設備を利用して、フィールド・ワークの基礎、ゲノム実習、ホルモン分析、GIS解析等に関する研修を行う。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

ホーム・ページ、高校生・学部生を対象にしたアウトリーチ、一般講演会、WRC主催のシンポジウム等を通じて、本事業の成果を広く一般に還元する。また、独自の目的として、本事業の成果を元に、実践的な保全計画を構築された研究協力体制を通じて相手国に提言したい。

8. 平成26年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成25年度	研究終了年度	平成27年度
研究課題名	(和文) 西部タンザニアにおける野生動物保全研究				
	(英文) Study for wildlife conservation in the Western Tanzania				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 幸島司郎・京都大学野生動物研究センター・センター長				
	(英文) Shiro Koshima・Wildlife Research Center, Kyoto University・ Director/Professor				
相手国側代表 者 氏名・所属・ 職	(英文) Allan Kijazi・Tanzania Wildlife Research Institute・Director General				
参加者数	日本側参加者数		5名		
	(タンザニア) 側参加者数		4名		
	() 側参加者数		名		
26年度の 研究交流活動 計画	京都大学野生動物研究センターから西部タンザニアに研究者・若手研究者 5名を派遣し、霊長類、肉食目を含む哺乳類の生息実態把握を目的に調査を 行う。また、人間活動に焦点を当てた参与観察とインタビュー調査も実施す る。それらの情報をもとに、タンザニア野生動物研究所において情報交換と 現状分析を行う。一方、タンザニア野生動物研究所からは若手を含む研究者 4名を京都大学野生動物研究センターに招聘し、WRCが有する国内研究拠 点において、フィールド及びラボに関する実践研究を行う。				

<p>26年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<p>フィールド調査では前年の経験を活かし、これまで以上に詳細かつ有効なデータ収集が可能となる。個体群動態の長期モニタリングを継続することで、季節的・年次的変遷も追求できる。また、フィールド調査後にTAWIRIとの実践的な情報交換と分析を行うことで、現地の実態に即した保全研究の推進が期待できる。一方、派遣・招聘事業によって、タンザニアの若手研究者育成のプログラムが確立されると共に、日本人若手研究者がフィールド運営や調査を進める実践的能力が高められる。</p>
--	---

8-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「第2回野生動物保全研究の現状と課題」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “Current states and problems of the study for wildlife conservation II”
開催期間	平成27年3月5日～平成27年3月8日(4日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 日本、犬山市、犬山国際観光センター・フロイデ
	(英文) Inuyama International Sightseeing Center
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 伊谷原一・京都大学野生動物研究センター・教授
	(英文) Gen'ichi Idani・Wildlife Research Center, Kyoto University・Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文)

参加人数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (日本)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	26/ 104	30
〈人/人日〉	2/ 8	
〈人/人日〉		
合計 〈人/人日〉	28/ 112	30

A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間(渡航日、帰国日を含めた期間)としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	地球上のさまざまな地域において、絶滅の危機に瀕する野生動物の保全研究と実践に関して、国内外から多様な分野の研究者が参加するセミナーを開催し情報収集、意見交換、議論を行う。																				
期待される成果	世界中の絶滅危機に瀕する野生動物を対象にした保全研究の現状や実践について議論することで、本事業を推進する上での課題や展望を検討することができる。また、得られた成果を広く一般社会に還元する上でのステップとなる。																				
セミナーの運営組織	日本側開催責任者と日本側拠点機関所属の研究者が本セミナーの企画・運営を行う。また、セミナーの実施にあたっては、日本側の若手研究者や事務担当者が実務をサポートする。																				
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容	<table border="0"> <tr> <td>国内旅費</td> <td>金額</td> <td>30,000 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費</td> <td></td> <td>500,000 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td></td> <td>100,000 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td></td> <td>50,000 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td></td> <td>48,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>728,000 円</td> </tr> </table>	国内旅費	金額	30,000 円	外国旅費		500,000 円	謝金		100,000 円	その他経費		50,000 円	外国旅費・謝金等に係る消費税		48,000 円		合計	728,000 円
	国内旅費	金額	30,000 円																		
	外国旅費		500,000 円																		
謝金		100,000 円																			
その他経費		50,000 円																			
外国旅費・謝金等に係る消費税		48,000 円																			
	合計	728,000 円																			
() 側	内容																				
() 側	内容																				

8-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「第2回タンザニアにおける野生動物保全研究」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Study for wildlife conservation in Tanzania II”
開催期間	平成26年12月5日～平成26年12月6日(2日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) タンザニア、アルーシャ、インパラホテル会議室 (英文) Tanzania, Arusha, Conference Hall, Impala Hotel
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 伊谷原一・京都大学野生動物研究センター・教授 (英文) Gen'ichi Idani・Wildlife Research Center, Kyoto University・Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) KEYYU Julius・Tanzania Wildlife Research Institute・Director of Research

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (タンザニア)	
	A.	B.
日本 〈人／人日〉	3 / 6	
	20	
タンザニア 〈人／人日〉	5 / 10	
	10	
〈人／人日〉		
合計 〈人／人日〉	8 / 16	
	30	

参加人数

- A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)
- B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

セミナー開催の目的	タンザニアにおける本事業研究について、その進捗状況及び同国研究者との実践的かつ効率的な議論を行う。その上で最終年度にむけたステップ・アップを図ることを目的とする。																					
期待される成果	本セミナーは単なる机上の理論だけでなく、実践と効率に焦点を当てることで、より実現可能な保全研究の方法が確立される。次年度以降の計画に向けてより実質的な意見交換も期待できる。																					
セミナーの運営組織	日本側開催責任者と交流相手国側開催責任者との間で綿密な事前打ち合わせをした上で、日本側拠点機関の研究者が本セミナーを企画・運営する。必要に応じて相手国側拠点機関の研究者のサポートを得る。																					
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	<table border="0"> <tr> <td>内容</td> <td>国内旅費</td> <td>金額</td> <td>50,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外国旅費</td> <td></td> <td>1,200,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td></td> <td>120,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td></td> <td>96,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>1,466,000 円</td> </tr> </table>	内容	国内旅費	金額	50,000 円		外国旅費		1,200,000 円		その他経費		120,000 円		外国旅費・謝金等に係る消費税		96,000 円		合計		1,466,000 円
	内容	国内旅費	金額	50,000 円																		
		外国旅費		1,200,000 円																		
	その他経費		120,000 円																			
	外国旅費・謝金等に係る消費税		96,000 円																			
	合計		1,466,000 円																			
() 側	内容																					
() 側	内容																					

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

「平成26年度は実施しない」

9. 平成26年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣	日本 〈人／人日〉	タンザニア 〈人／人日〉	〈人／人日〉	合計 〈人／人日〉
日本 〈人／人日〉		8/180 ()	()	8/180 (0/0)
タンザニア〈人／人日〉	6/88 ()		()	6/88 (0/0)
〈人／人日〉	()	()		0/0 (0/0)
合計 〈人／人日〉	6/88 (0/0)	8/180 (0/0)	0/0 (0/0)	14/268 (0/0)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。（なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。）

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

9-2 国内での交流計画

10/80 〈人／人日〉

10. 平成26年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	880,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	4,700,000	
	謝金	300,000	
	備品・消耗品 購入費	500,000	
	その他の経費	820,000	
	外国旅費・謝 金等に係る消 費税	400,000	
	計	7,600,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		760,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		8,360,000	